

令和4年9月12日 議会改革特別委員会 議事録
10時25分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○傍聴者 末広 天佑、中川 智之、和田 芳弘、児玉 朋也、山崎 年一、
細川 雅子、寺岡 公章

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。

それでは定足数に達していますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

日程第1、議会改革特別委員会議員定数問題についての採決、また後期委員会の経緯のまとめ、報告書の確認が今日の流れでございます。委員会の後の流れとしましては、16日の議会運営委員会の取扱いを経て、21日上程の流れとなりますのでよろしくお願いいたします。

それから、今回本会議に諮るという必要があるのかという問合せがあったようなのですが、大竹市議会会議規則第110条では、委員会は審査、調査が終了したときは、報告書を作り、委員長から議長に提出するというようになっております。また、案件が議案ではない場合、本来は、本会議での議決の必要はないとあります。しかしながら、委員会での採決は委員会としての意思表示になり、議会としての意思表示にはなりませんので、そういった意味からも本会議での採決としたいと思っております。

それから、今回の案件の各議員の賛否を広報に載せてほしいという意見がございましたが、大事な案件でございますので、個人の賛否などがよく分かる紙面構成で議会だよりを作成してほしい旨、議会改革特別委員会として、広報広聴特別委員会に依頼することに決して御異議がございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○網谷委員長 御異議ないということで、今日は広報広聴特別委員会委員長がおられますのでよろしくお願いいたします。

それでは、皆さんに1週間近く経緯書の修正をお頼みしとったんですが、1名の委員から修正の意見を頂きましたが、具体的な修正箇所でないため、現行案でまとめたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

よろしいですか。よろしいということに解釈させていただきます。

それでは、経緯書のまとめの件は、これで皆さんお願いします。

次に、採決の前の討論に入りたいと思っております。あれば挙手をいただいて。

小中委員。

○小中委員 当然、討論は前ふりとして必要不可欠だと思いますので、私は定数削減の立場から討論したいと思います。これは、様々なところで言いましたけど、まず前回の無投票という事態を勘案して無投票を防ぐのに必要な担保をした上で、なおかつ競争による活性化を図るという観点から、私は定数削減は不可欠だと認識しております。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかに討論はございますか。

小田上委員。

○小田上委員 現状維持というところで討論いたします。

3年間、特に改選後の2年間は、魅力づくりと成り手不足の解消という活動をやってまいりました。インターネットを使ったものにおいては、市民の見られる方おられて、そこしっかりやってほしいという声も多くありました。市民の方のお話を伺う中でも、まず議員が何をしてるのか、議会がどういうことをしているのか分かるようにしてほしいという声は大きくありました。その中で、議員の仕事の魅力づくりというところで自由討議、決算の意見の集約から意見を上げていくというものも出てきました。ただ、まだまだそれが機能してないなというのも正直実感しているところなので、前回の委員から引き続いて委員やってる身としては、反省しております。そういう市民の方の声を聞く中で、一概に無投票だったから減らすというのは、何も考えてない思考停止なんじゃないかといったような意見もあるぐらいでした。なので、もっと議員にしっかり魅力があるんだよというのを伝えていく活動をしなければならない。いろんな市民の方の声を聞いてくる、その意見を発言するという面で人数は必要であろうと思います。減らす理由もそこまで明確にどうか、これだからこそという基準もできてないところで減らすというのは難しいかなど。ただ、今後未来永劫減らさないとやっているわけではなくて、しっかり基準となるものを見極めていく必要がある、今後も検討、議論していく必要があるというところで、今の段階では現状維持という立場で討論します。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかにございますか。

日域委員。

○日域委員 一般の市民なり有権者の立場から見ればですよ、投票というのは政治参画というか、一番直接的な行為ですから、それが無いというのはやっぱりよろしくないんで、この際は減らすべきだと思いますが、その前に、今の小田上委員のお話を聞いて、確かに議会の魅力だとか中身だとかありますね。さっき基地周辺対策特別委員会を見て思い出したんですけども、さっきの資料の中に、何番か忘れちゃったけどデータがあるんですよ。あれなんかも昔私が議長と2人で、測定に行ったことがあるんですよ。騒音機を持ってですよ。阿多田島漁協の部屋借りて、飛行機の音がしたら出てって測るわけですよ。もちろん当番制ですよ。私はたまたま賀屋議長とペアでしたけど、あともうずっと皆さん行かれたんですよ。そのときに、組合長がこっちから行くのですから多少の接待をしてくれるわけですよ。

ヒー出してくれたりですよ、雑談をしてくれるんですけど。そのときに、組合長がそれ持っているんですよね、今の紙を。これ防衛からもろたんやって。それ見たら物すごく分かるわけです。何時にどんな音がしたって書いてあるわけです。コピーしてそれ頂戴と私言ったんですよ。そしたら組合長、渡すわけにいかんから、ちょっと防衛に聞くちゅうわけです。防衛に聞いたらノーだったんです。で、私が部長にじかに電話して、民間人に渡して何で議会にくれんのんやて文句言うたんです。それからきだしたんですよ。それも、議会の魅力なんです。議会は何かあったら欲しがらんと、天から降ってきよるものだけやったんじゃない面白くないわけです。今、SNSも結構ですけども、中身がなかったら面白くないじゃないですか。いくら立派な表紙つけても、中身がなかったら何やこの中身はって。だからそこが問われてるんだから、もうちょっと頑張りたいですね。私の意見は定数を下げるといことですけども、同時に魅力を上げるというのであれば、要はコンテンツですから。議会の中を濃くするように頑張っていきたいな思いますのでよろしくお願いします。以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかにございますか。

北地委員。

○北地委員 私は、現状維持という立場で討論させていただきます。

小田上委員が言われるように、ここ3年間協議してきたわけですけども、議会の魅力づくり、前半の2年間ではそういうところから出て、いろいろな活動もしてきたところですが、今回の成り手不足をテーマに、定数について協議してきたわけなんです。削減の中の理由に人口とかがありましたけども、この制度は、定数を人口を基に以前はしていたわけですけども、法改正があり、それがなくなったと。地方議会のそれぞれのありようについて定数を定めていくということで、人口については議論するべきではないのかなというようなどころもございまして、端的に言えば、人口が減れば定数減らすのかなという。今の現状、大竹市の現状を見ると毎年減っていくような状況の中で、毎回定数削減という話が出るのかなという思いもございまして。そういったところで、今の段階では現状維持と。将来的にどうかというところについては、またそこで議論していけばいいのかなというところで、現状維持という立場で討論させていただきます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかにございますか。どうぞ。

○原田委員 私は、定数削減の立場で討論させていただきます。

無投票を回避する手段として、定数削減ということはもちろんなんですけど、やっぱり人口減少というのは非常に大きい課題ではないかと思います。いろいろ試算されてますけれども、例えば2045年までに18,000人という試算が出てたりします。もちろん人口減少だけで、定数決めるということではないのかも分かりませんが、やはりこれだけ人口減ってくると、人手不足、成り手不足というのは、議会が例外ではないと感じます。優秀な人材を取ろうと思うと、少ない人数の中からそういう方を選ぼうと思ってもなかなか難しい面があるのではないかと思います。そういう意味では、定数は減らすべきだと思います。

すし、人口が類似してる他市町では、14名とか15名でやってる町もあります。じゃあ1名減らしたからどうなるかという問題でもないかなと思いますので、1名程度減らす分にはなんら問題はないのではないかと感じます。それは市民への影響とか、議会の中での役割分担とか、そういうものも特に私は問題ないと感じますので、1名減らして、これは行財政改革の一環でもあると思います。今、実質公債費率が15%超えています。そういう意味では、議員も1名減らして、議員が1名減るということは、議会事務局の職員なんかも1名減らしても大丈夫かなと思います。他市町は、16名でも4名の事務局職員でやってるところもあります。単に議員を1名減らすということではなくて、全体的に人件費の抑制ということを考えると、ここは定数削減をするべきではないかと思いますので、私は定数削減ということで意見を述べさせていただきました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかにございますか。

藤川委員。

○藤川委員 私は現状維持の立場で討論させていただきます。

3年前、議会改革が始まったとき、お恥ずかしながら、私は議員定数削減と何の根拠もなく発言させていただきました。その発言させてもらった理由は、無投票だったから、ただそれだけ1点のために発言しております。この3年間議会改革に参加させていただき、いろんなことを考えるようになり、無投票と議員定数、あまり関係ないのではないかと考えるように自分でもなりました。1か月ぐらい前ですか、自分なりのアンケートを市民の皆様に取りました。それも300名から400名、口頭、LINE、メールもあります。答えは50%ぐらいの方が興味はないんですね。残りの50%の中の90%は議員定数削減をしないほうがいいよと。その理由が、身近に議員がおったほうが市民は安心するという声がたくさんございました。私はやっぱり、市民の声を一番大切に考えて、この現状維持という答えを私なりに出しました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

よろしいですか。

一応皆さん、賛否両論討論いただきました。ありがとうございます。副委員長、よろしいということなんで、それでは、以上で討論を終結いたします。

それでは、議員定数問題について採決に入りたいと思います。今回は議案ではございませんので方法はちょっと変わってくるかなと思うのですが、現状維持と削減で起立採用となりますと、2回採決をするような形になりますので、現状維持で起立採決をさせていただきます、残りの起立しなかった方は削減の意思と解釈してよろしいでしょうか。

(「よく分かりません」と呼ぶ者あり)

○網谷委員長 現状維持と削減と、普通の議案ではないので、両方の議員の皆さんが、現状維持の方が何名、削減の方が何名というふうに2回やるのもあまり例がございませんので、それで最初の1回、現状維持から始めたいと思います。

今まで皆さんの議論を聞いて、それからアンケート調査でも議会報告会のアンケート、いずれも現状維持が多かったという結果が出ておりますので、そういう気持ちで順番を決めさせていただきましたが、それで異議ありますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○網谷委員長 なければ最初の、現状維持で起立採決し、起立しなかった委員は削減という方法でやらせていただきます。

皆さん、御承知と思ったので発言しなかったのですが、議長はオブザーバーでございますので、この採決の数には入りませんのでよろしく御理解をお願いします。

それでは、議員定数問題についての採決に入りたいと思いますが、先ほどの方法でやらせていただきます。

現状維持と思われる方の起立採決をお願いします。

ありがとうございました。

現状維持は今、4名の方が立たれたということは、委員7名ですから4名対3名ということで現状維持が多数ということで可決させていただきます。ありがとうございました。

それでは、ここで最終報告書の件もございまして、休憩に入りたいと思います。10分の休憩をさせていただきます。お願いします。

10時44分休憩

10時55分再開

○網谷委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を行います。

今、事務局のほうから配られたと思いますが、9番の最終結論と10番の結びを先ほどの文章の最後に結合させていただきます、この1年間の議員定数問題についての最終報告とさせていただきますが、皆さん読まれましたか。何かお気づきの点がございましたら。

小田上委員。

○小田上委員 この中については了承してはるんですけども、最終報告というのは、この定数のことについてですね。

○網谷委員長 もちろん。

○小田上委員 なので、その点について最終というところで、今後まだ改革に任せられてます課題はあると思いますので、引き続き取り組んでいくというものがあればよかったのかなとは思ってます。この件についてだけですということであれば、定数の問題についてだけですということでもありますかね。そこ強調していただいて、今後も成り手不足に関しての議論は続けていくというところで、また最終報告としては別であるという認識でいって大丈夫ですか。

○網谷委員長 今回議員定数についての最終報告とさせていただきます。これからまだ1年近くはございますので、また皆さんと協議させていただければと思います。皆さんよろしければ、これで一応1年間の議員定数については、委員会ではこれで最終ということになります。次回は本会議ということになりますので、今日までのところは皆さんよろしいでしょうか。

原田委員。

○原田委員 これ議場で委員長報告されるんですよね。この結びのところが、特に2回目のアンケート調査にはっていう、委員外議員の皆さんにも参加をいただきありがとうございましたと書いてあるんですけど。2回のアンケート調査にはというのが、何かありがとうございましたというのはどうなのかなと思ったんですけど。いや、細かいことかも分かりませんが。

○網谷委員長 一応2回協力いただいたんでね。一応過去形になっとるんですよ。よろしいですかね。

○原田委員 調査をしましたぐらいでいいんじゃないかと思ったんで。ありがとうございましたまでいるのかなと思ったんですけど。

○網谷委員長 いや、委員外議員ですからありがとうございました。

○原田委員 分かりました。

○網谷委員長 よろしいですか。

日域委員。

○日域委員 委員長、今の原田委員の言いたいことは、この文章が委員外議員に宛てた文章かということなんです。これは一般論の文章ですから、よく本を書いたときに、この場を借りて編集のあの人が、この人に何とかしていただいたことを感謝しまして、それを書けということであって、何とかさんありがとうございましたと書くのではないんですよ。これ日本語の問題ですよ。だから、委員外の皆さんにも御協力をいただきました、この場を借りて感謝いたしますとそう書いたらいいんですよ。これ、あくまでも報告書ですから。この文章が誰に向かったどういう文章かということを考えたら、この文言は正しくないというのが原田委員の言いたいことだと思って私がちょっと代弁しました。

○網谷委員長 協力いただきましたと、そういうふうにさせていただきます。

小田上委員。

○小田上委員 以前に頂いていたのに大変申し訳ないんですけど、2番のところなんですけど、試行を経てもう実施されてるんじゃないかなと思うんですけど。

○網谷委員長 試行を実施ですよ。

○小田上委員 実施されていますでもいいのかなと思いました。

○網谷委員長 試行はなしということ。

○小田上委員 ええ、もう実施されています。

○網谷委員長 ほかになければ。

小中委員。

○小中委員 1点だけ指摘させていただきたいと思います。私は根本的にそういう字句の問題じゃなくて、この構成自体が、まずこれ9月からやってきたのは、定数問題についてなのに、最初からずっとこう長くやって最後に結論があるわけだけど、基本的にまず結論から書いていくべきだと思います。これは私が思ってるだけで、もう皆さんがこれでいい言うんやったらもう私は一向に構いません。ただそれだけ一つ、市民でも皆さんでも分かるように言うたら、結論は何かというのを最初に出すのが親切な文章であり、私は常道だと思いますが、もう時間もないしこれでしょうがないと言うんやったら、まあしょうがな

いのかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

一応、字句の訂正は今の2か所でよろしいでしょうか。

原田委員。

○原田委員 小中委員が今言ったんですけど、結論はやっぱり頭に持ってきて、その経緯を御報告しますと。こういう結論があって、これでいうと4名と3名というふうな結論で16名の現状維持にすべきとの意見が出ましたと。で、このことについての経緯を報告します、そういう構成のほうが非常に、今、小中委員に言われるように大変分かりやすいかなと思います。

○網谷委員長 大変大きな指摘ありがとうございます。この全体をとということになりますと、今、小中委員も言われましたように時間的に問題もございますので、次回まだ、最終報告書が書かないといけない場面が出てきます。そのときには、しっかり今のお二人の意見を大事にしまして考えてみたいと思います。よろしくどうぞお願いします。ありがとうございました。

今の字句については、2点でよろしいですか。

よろしければそれで理解していただきたいのですが。最後は、結びの3行目ですね、参加を協力いただきました、協力ですね。それから2番目の、試行が実施されました、というふうに変えさせていただきます。

そういうことでよろしいですか。

原田委員。

○原田委員 最終結論の、議員定数の問題についての採択の結果というところなんですけど、後期委員会の活動というところにメンバーが書いてます。皆さん、委員長というのは採決に加わらないというのを御存じな方はいいとは思いますが、後期委員8名と書いてあって、これ7名なのかというところなんです。委員長を除く7名の委員による採決としてもいいのかなと、一応言っときます。別に却下されても問題ないようなことだとは思いますが、丁寧に説明するのであれば、それを入れてもいいのかなと思います。

以上です。

○網谷委員長 委員長を除く7名の採決の結果と、そうですね。

○原田委員 7名の委員による採決の結果でもいいのかなと思います。

○網谷委員長 ほかにあれば。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○網谷委員長 それでは、今の2点と言いましたが、今原田委員の言われましたこの文言も入れまして、3点に変えさせていただきます。よろしいでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、もう締まろうかというところで引き延ばして申し訳ないんですけど、先ほどの、最後の原田委員の言われたところですね、確かに市民の方が見られると分かりづらいという点、まああるんですけど、委員長除くと言われると、何で除いたんだとか言って逆になるかなと思うので、こういうもんなんだよと、全員参加してこういうもん

だよというところで、このままで今のところはいいのかなと思います。

以上です。

○網谷委員長　ということで、これは委員長を除くのがどこの委員会でも常識の範囲でございますので、という意味で市民の皆様も納得していただけたらと思います。ということで、この文言は省かせていただきます。

ということで、これでよろしいですか。要するにまた、2点に戻ったんですが、2点の変更をさせていただきます。

それでは、以上で日程1は終わらせていただきます。

日程2に入ります。そのほかになりますか、何かございますか。

小田上委員。

○小田上委員　本会議最終日の結果を受けて、また動き、変わってこようとは思いますが、結びのところに書いていただいております工程表を含めて、今後委員がどういうところに注力していくべきかというところを話し合う機会、もしくは委員長からお示しいただいて、工程ですね、スケジュール含めてお示しいただけたらと思いますので、そのあたりは、今日の今日は無理だと思いますけども、お願いしたいと思います。

以上です。

○網谷委員長　今の小田上委員の御意見ですが、一応、結びのほうに本当に簡単に書いております。ちょっと読ませていただきます。

議会改革特別委員会では、今後、任期満了までの1年近くの活動期間においては、当初の活動計画どおり、当初というのは、最初にスケジュールを示したと思います。それにも検証ということは書いておりますので、それを活動どおりに前期委員会で実施されている、試行中また実施されているものもございしますが、改革事項の検証、併せて新たな改革事項、そして付議事項の中にもございします、議員の成り手不足解消について、引き続き調査研究などを取り組んでいきたいと考えていますので、これからもよろしく願いいたします。

ということで、細かいことはまた次回の委員会でも示させていただきたいと思っておりますのでよろしく願います。

そのほかの他に意見は。

なければ、次回の開催日を決めて終わりにさせたいと思います。次回、9月28日に決めさせていただきます。水曜日ですね。10時から願います。

この日は、本会議も終わっております。それで、この1年間の流れの、皆様方の相対的な意見と申しますか、それをお聞かせいただいて、決算委員会が近いので、今試行されております4項目の中の決算委員会等の、正式に議会提案が前回中止になっております。その辺のところをもう一回検証してみたいと思いますので、28日はそういう方向でいきたいと思っております。よろしいでしょうか。

それでは、以上で議会改革特別委員会を閉会といたします。

お疲れさまでした。

11時13分 閉会